

# 教務だより

2014年9月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## 夏を整理するとき 「気づき」がチャンス！ 茗溪塾塾長 宇野 雅春

かつてない天候に恵まれた今年度の夏期合宿は天体観測や森林浴タイムトライアルをはじめとする野外行事も全て晴天の中で行われ、今までにない成果を上げました。その最中、広島では大雨が降り、土石流によって多くの命が奪われました。予想していない自然災害というものがまだまだ人間社会を脅かしているのに、科学があたかもそれを征服したかのように思ってしまった人も多いのではないのでしょうか？エボラ出血熱やデング熱なども、感染する伝染病として世界を騒がせています。世界中におこっている「戦争」も含めて私たちの将来に全く関係ないとはいえず、「学ぶ」ということの必要性を痛感します。国際化する「社会」の中で、自分たちの未来を着実に明るいものにするために、子供たちには是非、しっかりと勉強してほしいと思っています。

今年は、夏期合宿で「イングリッシュキャンプ」を実現しました。英語によるコミュニケーション能力が重視されるなかで、入試自体も大きく変化することになりそうです。

受験学年でない中学1年生・高校1年生2年生で実現した、ネイティブも入れているイングリッシュキャンプは、今後の英語教育へ準備として意義深いものがありました。

米国人のアマンダさんの協力もあり、オールイングリッシュに近い状況下で、生徒たちも熱心に参加してくれました。目的は二つ、ひとつは英会話のスキルを身につけること、もう一つは実際にネイティブと会話することで、「自信」を持つということです。

私たちが長く英語を学んでいながら、全く会話が出来ないという、そんな手の届かなかった部分を補い改善していくことが、多分あらゆる教育機関で、今後実践されていくと思います。塾は受験をサポートする以上、その流れを早急に変える必要があると思っています。

「アナと雪の女王」の大ヒットで「Let it go!」を英語で歌える小中学生が想像を超えてたくさん存在するということが、英語教育の浸透を感じさせます。またそれを契機に英語に興味を持つ小学生も多いようです。ちょっとした「気づき」が、学びへの意欲を引き出すことを信じて、今後も新しいことに挑戦していきたいと思っています。

長い夏が終わりました。忙しい二学期を迎えて、受験生は再び戸惑っているようにも見えます。既に目標を決め、ひたすら日々の学習に励んでいる生徒も少なくはありませんが、その一方で、息苦しさを感じ、「なぜ、こんなことをやらなくてはならないのか？」と新たに疑問を感じる生徒もいます。親や先生が言っていることは「わかりきっていること」と思っています。そういう生徒に何を言っても「馬耳東風」「馬の耳に念仏」「のれんに腕押し」です。実は、その生徒は「気付い」ていないのです。この受験が持つ自分にとっての意味に…です。夏には気づきのきっかけをたくさん企画してあったはずですが…。

ここから夏を整理する九月です。「やり直し」を少しでもいいからやってみましょう。

「わかる」という経験につながるはずですが。遠く遥かなゴールにばかり思いをはせるのではなく足元の一步を進ませることが大切です。その一步を踏み出すために、今の自分に一番大切な課題に「気付く」ことが、最重要課題だと思います。それが必ず新しいチャンスを作るはずですが。受験学年の皆さんの入試までのラストスパートが始まります。